明治廿五年七月三十一日印刷
明治廿五年七月三十一日出版

（非賣品）

婦人衛生會雜誌

第參拾貳號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生會雜誌

第參拾貳號

目次

演說
◎衣服に就て　醫學博士緒方正規君
◎木灰汁の亞細亞虎列剌に於ける試驗成績　T. T.
◎吃の匡正法
衛生叢談
◎母のつとめ（前號の續）　C. M.
◎劇場空氣試驗
◎佐賀熊本の赤痢
◎類似流行性感冒
◎本會錄事
◎會告

◎本會規則摘要

◎本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開き隨て社會全般の幸福を增進するにあり

◎本會は毎月一回第一土曜日集會を開き諸大家を聘し講義演說を囑し會員は勿論同親族知己の傍聽を得せしめ又之を筆記して毎月會員に頒つ

◎本會會員を分ち終身特別通常學生男子贊成員とす

◎終身會員は入會の節金拾圓以上を收むる者特別會員は毎月貳拾錢以上通常員は同拾錢學生其他事故ある者は會費五錢とし男子贊成員は毎月拾錢を納むる者とす

◎入會せんとする者は何人を論せず族籍住所姓名を記し下谷練塀町四十三番地本會事務所へ御申込あるべし

下谷區練塀町四十三番地
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第參拾貳號　明治廿五年七月三十一日發兌

講演

◎衣服に就て（五月八日例會保育園に於て）

醫學博士　緒方正規君演說

只今小西君より、白喉の原因等に就て又其教授の方法等に就ても委しく御話しを爲され、其上卒業された人に就て、其教授の成績をも懇篤に示されましたので、皆樣にも一層委しく御解りになり、御裨益の事であらうと思ひます。私は、今日衣服の事に就て其大要を摘んで御話し致す積りで御座います。

偖我々の棲息を致して居りまする東京は、他の地方に比較致しますると四季寒暖の區別が甚たしからず。空氣の温度を計ッて見まするに、極寒の時に漸く攝氏の零度或は零下五六度位にして。其熱い時に空氣の温度を計ッて見まするに、攝氏の三十四、五度より昇る事は滅多に有りません。併しながら他の地方、即ち印度の如き熱体地方に於ては、空氣の温度は多くは四十度或は其上に成る事も有り。又北極の近傍に於て人の棲息する所の空氣の温度を計ッて見ますると零下四十度位の温度なれば人間は八十度位の温度の中に棲息して居る事が出來るので有ります。然るに人の體温を計ッて見まするに、熱体地方に住ッて居る人も、寒体地方に住ッて居る人も、体温に變りが有りません。若し體温が僅かに尋常の度を越えて上り、或は下りますれば病氣で御座います。尋常の體温とは御承知の通り、三十六度五分乃至三十七度五分で御座りますが、若し此體温が三度昇りまして四十度になりますれば大熱で御座います。ソレに反して三十五度に下りますると、虚脱に落チて生命も保つ事が出來ない樣になります。故に吾人の體温を平等に保ちまするには、健康でなければなりま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せん、而して空氣の温度は先きに御話し致した通り、土地に因て變りが有るのみならず、常に變化を致して居ります。近頃の季候の如く、此間までは余程寒氣が強いかと思ひますれば、今日の如きは又余程暖氣になると云ふ様に空氣の温度が一定しません。斯くの如く空氣の温度の時々變にも拘らず、我々の身體の温度を平等に保ちまするには、体内で拵えまする熱の分量を、其氣候等の差異有るに從ッて、多量に造り或は少量に拵えなければ、四季折々の氣候に適ッて体温を平等に保つ事は出來ませぬ、故に體温ノ製造は季候に調節して參りませんでは必ず健康に害有るものであります。

我々の體内に於ては、無數の化學的の作用で絶へず多量の熱を製造す。是炭或は薪が燃ゑて熱を發するのと少しも變りも御座いません、而して我々大人が一日の中に拵ゑまする熱の分量はどの位で有るかと申しますれば、一晝夜即ち二十四時間に二百七十万温位で御座います。是れを外物に標準を取ッて見ますれば、二百七十万温位の熱は四斗餘りの零度の水を、三十七度迄に温める丈けの熱の分量にして我々の身體に於て日に拵ゑて居ります。而して其拵えました熱は、一部分は機械的の作用に用ゆる即ち運動にして或は手を動し足を動しまする機械的の仕事に用ゐ、其外は身體を温めて、終には外部に出で、仕舞ひます。空氣の温度が低ければ自然に食物が進みまして、運動をしまするのも活潑になります、活潑に運動しますれば滋養物が身体の中に於て能く燃ゑます、能く消化れますれば多量の熱を拵ゑます。又我々の皮膚は寒氣に逢ひますると乾き、皮膚が乾きますると、皮膚にある所の血管は收縮し皮膚に血液が少くなりて其血液内部に聚り熱を成るたけ外に與へない様になります又空氣の温度の暖い時は、皮膚

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の血管は余程廣がりて多量の血液が皮膚に集まる、其時は皮膚が潤ふて赤くなり血液が皮膚に來まするると、其血液が空氣の爲めに冷され汗出れば、其汗が蒸發して水蒸發に成る爲めにも余程冷やかになる。空氣が乾いて居りますれば、益々我々の汗の蒸發する事が強い、爲めに我々の皮膚は冷される、又我々が夏に於て、扇子或は團扇を遣ひますのは、皮膚に血液が多量に有り、或は又汗が出た時に其汗を多量の空氣に依て蒸發させる故、涼くなるので有ります。又空氣の溫度が高い時には食物を取りまする事も余程少く體中に熱を拵ねまする物質が少くなりまするから、冬期に於けるごとくに身體の運動が活潑で御座いません、又強く運動を致しまするとと、益々熱くなりまするから尚々運動が少くなります。それで我々の身體には只今御咄しを致した通り、數多の方法に依て體溫を平等に維持して居りますが、併し外に

助けなくては之を平等に維持する事は出來ませぬ。而して其の外の助けとは何で有るかと云ふに、暖房住家幷に衣服等にして之れに依て体溫を平等に保つ事が出來ます。元來衣服の目的は、皆樣も御承知の通り寒氣を防ぎ、或は熱氣を防ぐために用るので、衣服を用るため体溫を外部に放つ分量が少くなる。縦令ば衣服を用ゐざる時には、體溫百分を外部に與ふるとそれば、衣服を用ゐれば百分中の四十分くらゐは、外部に與へるのを防ぐ事が出來ます。然らば衣服も如何なる質の物が宜しいかと云ふに、其厚さ薄きに拘らず、布の間に空氣を多量に持ッて居る物が溫かく壓搾した物も溫かならざるは其中に空氣を含む事が少いからであります、布類により空氣を含んだものが溫いと云ふはドウ云ふ譯かと云ふに、空氣は熱を導く事が余程惡しき故衣服の物質の中に空氣を余計含めるものも其衣服益々溫いのでございま

す。

動物に於るも同じ事で、總じて動物は其皮膚に依て熱を外氣に與へる事を防いで居るのでは有りません。毛或は羽の中若くは其間に多量の空氣を含有し以て寒氣を防いで居るのでございます。ソレ故余りからだに密接致しまする衣服は寒く、身體に密接致さざる衣服は却ッて暖いものでございます、身體と衣服との間に空氣が有りまするから暖かく、今それを證して見ますれば、冬期の候に於て、澤山に衣服を着し座して居りまするに、外は充分暖かでも膝の邊は寒く感じます、則ち前に御咄し致せし如く如何に澤山に衣服を着ましても、膝と衣服とは密接致しまして他の部分より僅かに空氣を含むのであります。手袋抔も皮の手衣と毛の手袋とを比較致して見まするに、皮の手袋は冷たく、之れに反して毛の手袋は、毛の間に空氣を保ッて居りまするから暖かでございます。ソレから袷、綿入に致しても、表と裏との間に綿を入れまするに、其綿の分量極く僅なものでありますが、綿を入れた爲めに布と布との間に多量の空氣を含ませます故、袷、綿入の暖さに非常の差が有るので御座います。而して毛織木綿にしても新らしい中は暖いが、長く用ゐて居りまする中は布帛の間に塵芥が這入ッて、爲めに空氣が漸々に無くなりますから、古くなるに從て暖くなりなります、又洗ひまするに布帛の質が縮んで密になり矢張り暖くなります。

衣服は外部より雨或は露雪のために濡れます、內部よりは汗或は皮膚の脂肪の爲めに不潔になります。又濡れました着物は暖く無いと云ふは、其衣服に水分が有ッて、其水分が温熱を身体より能く導くのみに非す、其水が身体の温まりの爲めに蒸發し、其蒸發のために身体は余程冷くなッて參ります。「ベテ

ンコーベル」と云ふ衛生學の先生が殊更に靴下を濡らして、其濡れた靴下を穿いて試驗をしたと云ふ事が有りますが、濡れた靴下を穿いて居りまするど、體の温りて自然に乾きます、其濡れた靴下を乾かすのに要する熱の分量は、恰度半斤の氷片を解かす丈けの温度でございます、即ち水一合五勺を零度より沸騰點に至らしむる丈けの熱の分量を要します。或は我々の衣服が雨雪等の爲めに濡れたるを乾く迄に要しまする熱の分量は、我々が一晝夜二十四時間に躰内で拵へまする温の分量と同じで御座います。喋々申までも無く濡れた衣服足袋等を着し居りますれば、屢々寒冒に陷り、或は種々の加多児等を惹き起しますから能く注意せねばなりません。

而して室内空氣の温度は大抵何度位ゐが我々の身躰に適當して居るかと云ふに、堀氏の十八度が至極適當て、精神上にも愉快の感覺を與えるのでございます。

一体衣服を用ゐるのは、啻に寒氣を防ぐ爲めのみては有りません。日光の熱の吸收を遮り防ぐので御座います、それ故其色合も其季節に依て擇まねばなりません。白色と黒色と何れが強く日光の熱を吸收するかと云ふに、それを試みるにも、雪の降り積りたる上に同數の白い布帛と黒い布帛とを同じ大きさに切ッて、載せて置きまするど、黒色の布帛は一番強く太陽の熱を取り黒い布帛を載せて置いた處の雪は早く解けて、其布帛は雪中に埋れて仕舞ひますそれに反して白い布は何時までも雪の上に殘ッて居ります、是れに依て白色の物は日光の熱を吸收すると弱く黒色の物は光の熱の強く吸收するとが分ります。日光の熱を強く吸收するものは第一に黒色次に赤色其次が緑色で、白色幷に淡黄色、淡色は余り熱は取りません。ソレ故我々は夏に成りまするど、白い浴

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衣、白い帷子等を用るので有ります。衣服の質の水分を取る事に就ても余程違ひます。麻幷に木綿は水を吸ます事も速かで、其吸收した水を蒸發する事も、他の毛織等に比較すれば速かで御座います、蒸發するにも先きに御話し致した通り多量の熱を要します、身体から發汗しますれば、麻幷に木綿も直ちに其水分を吸收して、速かに蒸發せしめ之れに反して「フランテル」毛織等は水分を吸收する事が余程遅く又之を蒸發せしむるも余程遅く其蒸發する事か遅ければ急劇に體温を取るのも少ない、ト云ふは「フランテル」は其質の間に多量の空氣を含んで居り、且つ皮膚に密着せず皮膚と布帛との間に隙間が有り濕れて格別冷く感じない。麻で有りますれば、少し濕れば冷たう御座います、今水一金盥の水の中に麻と「フランテル」とを同時に入れて試驗す）の中に、麻と「フランテル」とを同時に入れ絞ツて之れに觸れば冷たく、「フランテル」は冷くない。ソレ故麻の襦袢を着て居りまするのと、「フランテル」の襦袢を着て居りまするのとは、大變に相違が有ります、殊に汗の澤山出る人は成るべく「フランテル」の襦袢を着て居りますれば、汗が出ても左程に冷く感じない、又感冒に罹る事も余程少なくなります又襦袢は成るべく度々換へなければなりませぬ。先に御話しを致した通り、内部からは汗が出て、或は皮膚の汗が附着し、其中に空氣を保つ分量が追々少くなッて種々の病毒等が附着致しますから、度々換へて清潔にしなければなりませぬ、衣服は家居と同じ事で、成べく清潔にして空氣を余計に含んで居るものでなければなりません。患者の用ゐた衣服て殊に、肺勞の患者の用ゐた着物等には其病毒が附いて居ッて傳染致しますから、充分消毒した上でなければ用ゐてはなりません。

其外衣服に就て居りまする化學的の毒物は、主に猩紅で染めましたものに砒石を含んだ色素が有りますがそれで染めました物を用ゐますれば、屢々皮膚に發疹を生ずる事が有りまするから、注意を加へなければならぬ、殊に子供の衣服に其色を用ゐますと、子供は數々之を嘗めて其毒に中る事が有りますから、其色合も中々忽せにはなりません。

衣服は素より寒氣を防ぐに必要の丈けは用ゐなければならぬが、過度に失しては害になりす、余り衣服を多く用ゐますれば、皮膚が柔弱になりて少し寒い空氣に當ても直ぐに感冒の恐れが有ります、併し子供或は病人、虚弱の人に就ては、寒氣を防ぐに余りある位用ゐなければなりませぬが、強壯の人は余り澤山に用ゐては、却ッて其れが爲めに身体が弱くなッて仕舞ひます、併し乳兒ハ衣服を澤山に用ゐなければなりませぬ、其譯ハ我々大人の呼吸しまするのは多く鼻で御座います、鼻で致しまする時は、空氣の通ッて往きまする道が長い、それ故少々冷たい空氣も温ッて肺臟に這入る樣になりますが、併し乳兒の中ハ多く口で呼吸を致しまするから、肺臟に入る道が短いので、屢々氣管支加多兒を起しますから、多少注意して首の廻りも寒くないやうに卷いて遣らねばなりませぬ、併し一体日本の高貴の方の子供には、余り着物を着せ過ぎる弊が有ります、或西洋人が日本の高貴の方の子供の病氣を診る時に衣服を數えて見たら、十二枚程着て居ると云ふ話しが有りますが、左程澤山に衣物を着て居ッては、躰の運動も出來ず、却ッて体の發育に害を及ぼします。其人の言われるのに日本の子供は葱の樣で有ると、衣服を一枚づゝ剥いて都合十二枚程剥いたと申す話しがごいますが、ソレ程に着せずとも宜しいのでありまｓ。

老人は体の弾力も少く、血液も強壮の人に比較すればば少ない又体内に於ける新陳代謝も強壮の人に比較して少なし故に衣服は余計用ゐなければなりませぬ。急劇に温度の變りの有るのも大變に悪し暖い處に居て急に寒い處に出るのは余程能くない事で、縱令ば熱い湯に這入り身体の暖くなッて居る時に急に寒い空氣に逢うと云ふやうに急劇の變換は余程悪うござります急劇の變換に逢ひまするを感冒或は氣管支加多兒等に罹る事が有りますから湯に這入ッた後抔は余程注意しなければなりませぬ。外部に於ては寒氣熱氣の急に變換するのが悪い如く、又内部に於ても身体の熱して居る時、冷かなる氷水等を飲みまするを急に胃腑か冷えて、腸胃加多兒等を起しますから、成るべく過度なる變換をからだに起させぬ様にしなければなりませぬ。衣服の形状幷に仕立方等に就て注意す可きは衣服の身体の部分に強き壓

力を與へては往けませぬ、余り強く縛りまするを大切なる機關の運轉を妨け、殊に子供は機關か發育する時で有りまするから、能く注意しなければならぬ。併しながら日本の衣服に就ては、是れと申して指す程の害は有りませんか、洋服には隨分害か有ります、日本の服は唯運動致すのに自在で無い、是れか多少衛生上に害は有りまするか、其外衣物の着し方、仕立方には申す程の事は有りませぬか、西洋服に就ては、種々の害かあり。第一に男子の服に就ては、余程狭い襟を用る、殊に獨逸の士官兵士抔は狭く高い襟を用ます、成程形に於ては見好いか知れませんか、余り首を締めて居りまするを、頭部の血液の周圍殊に、静脈の血液か心臓に戻るのを妨けましてそれか、爲め脳充血を起し、或は脳の血管か破裂して卒中症を起すことかあります。婦人の服で、第一に害の有りまするのは「コルセット」と云ふも

ので有る、此の「コルセット」は腹部を締め之れに衣服を着けるに極く必要のもので有りますか、是れをつよく締めまするど、種々の害か有ります、此「コルセット」（實物に就て示さる）の中にハ「クヂラ」が這入ッて居り或は鉄線が這入ッて居るのも有り、是れで強く締めまするど呼吸を妨げるのみならず、内臓の諸機關に障りが出來て參りまして、日本でハ未だ今日までは見ませんが、欧羅巴の婦人にハ肝臓と云ふ大きな臓の一部分を酷く締めます爲め、其肝臓が縊れて、下の方にさかつてをりますものが往々有ります。其外腎臓等も通常の位地より下の方にさかり、又婦人の極く大切なる腰部に就ても、非常なる變化を來す恐れか有ります、それのみならず血液の循環にも大害を及ぼしますから強く締めては往けません。又婦人子供の用ゐます靴下止もかたいのを用ゐますと、先きに御話し致せし如く、血液の循環を妨げ、静脈の血が元に戻る事か出來ないで、漸々靜脈か膨れて來るやうになります、又靴にも余程注意を致さなければなりませね。欧羅巴人の足の形ハ天然の足の形を備へて居るものは殆ど一人も無いくらゐで御座います、然らば生質さうで有るかと云ふに、決してさうで無く、靴を用ゐるに就て殊更に天然の形を損するので御座います、それ故に西洋人の足を見まするに、其親指が外方に向き、或は第二第三の指は列を離れて上の方に上ッて居り、一人として天然の足の形を存せる物は有りません、初めは天然の形を爲して居る足でも、靴の形に無理に入れるから、遂に色々の變形を爲すので御座います、（此處に色々に變形した處の圖か有りますから御覽下さい）畢竟靴の先きを細くして恰好を能くするためで有りませうが、如何に恰好を能くするとは申せ、天然の形を變せしむるは誠に惜むべきの事で有りま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す。私か歐羅巴に參りました時に、或解剖學の先生が私に向ッて、貴君は日本人で有るから定めて天然の足の形を持て居らるゝならんか、見せて貰ひ度いと申して石膏で其形を取り是れこそ天然の足の恰好で有ると申されましたが、靴を用ゐますにも、徒らに恰好のみを注問致しまするど、種々の害を釀しますから、それ等も能く注意せねばなりませぬ。今日は衣服に就て右の大要を摘んで御話しを致しましたので御座います。

◎木灰汁の亞細亞虎列剌に於ける試驗成績

T. T.

古來より我邦に於ての一の習慣として、諸々の惡しき臭いのある排泄物及糞便などによく木灰をかけたものであります。又衣類とか什器などを洗ひますにも木灰汁をつかひますことは皆樣御承知のことでありますが、元來この木灰といふものは植物の燃殘りのものでありまして、主もに炭酸亞爾加里より出來ておりますから、洗濯などしまするより衣類や什器の汚れたる垢が、脂肪と結合まして石鹼のような塩梅になりますから、衣類の素質や色澤を傷めることがなく、よく物を清潔にすることができます。之れは貴き人より下々の人民に至るまで、貧富の差別なく何處の家にも無いことはないものでありますから、實に調方なるものであります、大阪衛生試驗所の技手日下數と云へるひとは、この木灰汁を以て亞細亞虎列剌を殺すことが出來るかどうかと云ふことを試驗致されました、それで本灰汁を以て虎列剌を試驗しましたが之れ、一番恐るべき一番蔓延り易きもの故に、若し此の木灰汁をもつて撲滅することが出來ますれば、實に衛生上の利益此上もなきことゝ試驗に取りかゝられた譯であります。試驗用の虎列

菌は客年彼地に於て眞性虎列刺に罹りたる患者の糞便より分けて、純粋の培養を施したるものでありまして「コヒ」が記載したる虎列刺菌と少しも異ならざるもので試驗用よは諸種の灰、即ち火鉢の灰、新製の藁灰、及古灰等を以て試みました、灰入肉羹汁は其節臨時に新製しましたもので、其法は灰「十グラム」を百弗頓肉羹汁百立方「センチメートル」に混せ合せ振り盪かし、一時間蒸氣消毒の竈内に於て熱を與へたる後、十五乃至二十時經つて之を漉して、綿の栓をしたる試驗管に取りました、之を十倍液と申します、又此液に同分量を混せたるものを二十倍液と致し、又此十倍液に三倍の分量を加へたるものを四十倍液と唱へ、又五倍の量を加へたるものを六十倍液と申します。さて此試驗をしまするに純なる百弗頓肉羹汁に虎列刺菌を植へて比較參考と致しました、又虎列刺を接種るには數回白金線を出げて耳掻の大さとなし、二回接種るのであるから其黴菌の數は決して少いものではありません、接種てより後十日の間之を攝氏の寒暖計二十五度乃至三十三度の温き室の内に入れ置き、毎日時間を定て撿査を致したのである、而して先づ第一木炭汁は果して殺菌の效力を有するや否やといふ事に付、本年一月九日百弗頓肉羹汁二百立方「センチメートル」に適宜き灰を混せ之を振盪かし、半時間蒸氣消毒竈内にて煮沸て、翌十日之を漉し消毒をなせる試驗管の内に容れ、又成規の消毒法を施行したる後、其翌十二日此灰肉羹汁十個を取り之に純粋に培養したる亞細亞虎列刺菌を種へ、又別に比較對照のため同時に通常の百弗頓肉羹汁三個にも同様種を植へまして温かき室の内に入れ、其翌十三日即二十四時間を經て後之を撿査しましたところが、比較液（たゞの肉羹汁にコレラを入れたるもの）は三個共微しく濁り「コ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

レラ」の蕃殖たる徴をあらはしました、故に標本をこしらへ之を顯微鏡の下にて撿視しますのに、數限りもなき「コンマ」「ノ」の形をなしたる黴菌を認めました、而うして時日の經つにつれて其濁ることが愈々增加へてまへりました、之に反して灰を入れたる肉羹汁は、十個共に全く澄んでをり明らかでありまして、十日經つも少しも濁りません、右の試驗によりますれば木灰汁はコレラを殺す効力をもつてれつて、其一定の分量はよく黴菌を殺滅するものであります。次に其分量を知らんために豫め製し置きたる灰十「グラム」即十倍液を以て肉羹汁に混せ合せ總べて前の如く試驗管十個を取り、之にコレラを種へ且つ同時に比較液三個を製し、共に温かなる室の内に入れ置き日々撿査しましたところが、比較液の方ハ二十四時間經つて、もはや濁があらはれコレラか增植て參りましたが、灰を入れた肉羹汁は十日を經ッても尙よく澄んでおりまして、少しも黴菌の生ずるを見ません、右の試撿によりまして十倍の木灰汁ハ亞細亞コレラ菌を殺すことの効能あるものである、といふ事か分明りました。

其次の試驗は木灰汁の虎列剌を殺す稀釋度でありまして、二月二十六日兩三日以前に製したる木灰肉羹汁の十倍液、二十倍液、四十倍液、及六十倍液を取り之れに「コレラ」を植へ、且比較液を製し試驗したるに、二十四時間の後比較液（ソップにコレラを入れたるもの）は既に微しく濁をあらはし、黴菌が蕃殖ましたが四十倍、二十倍、十倍、の液は全く澄んで居りました、而して四十八時間の後比較液及六十倍液は益々濁り、四十倍液は微しく濁りを生じ、又七十二時間（三日間）の後に至り二十倍液の半數は微しく濁りました、今之を顯微鏡を以て撿査するに「コンマ」狀の黴菌を見ました、然うでありますが二十倍液の

半分及十倍液は十日を經ツても全く澄みて少しも黴菌の生育を認めません、此等總べての試驗によりますれば六十倍及四十倍の液は全くコレラ菌を殺すことが出來ません二十倍の液も亦全く安全と申されません然れども十倍液に至つては全くコレラを殺すことが出來ます。

扨て其次は灰の異なるに從ひ効力に異同ありや否やと云ことで、先づ小使部屋の通常の灰を以て試驗しましたる處が、遂に左の結果を得ました、日常使用ふ火鉢の灰は其十倍液に於てはコレラを殺すところの效力を有することであります。

四月一日には新製稻藁の灰、一兩年の間床の下に放棄きたる古灰、及木炭に多量の土の類を混ぜたる所謂炭團の灰を以て試驗じたるに、時を經るに從ひ悉く少し濁を帶び、コレラ菌を生育ました、右の試驗によれば新製稻藁の灰、一兩年の間床下に措きたる物古灰及炭團灰は十倍液に於てコレラ、菌を殺すことを得ずと云ふ事も判然りまして、尚其他細密なる種々の試驗ありて遂に左の結論を得ました。

以上種々の試驗の成績によれば、通常使ひ用ゐる火鉢の灰の十倍液は、亞細亞虎列剌菌を二十四時間の內に殺すことの出來るものであります、(但し藁灰、炭團灰及一兩年間床下にありしもの及古灰は此限にあらず)故に彼の「コレラ」流行の時に當て之を使ひ用ゐるは、啻其調達の容易なばかりでなく、又其價極く廉く、且危險のことや損害の少きもの故、其稗益は決して少くはありますまい、彼の僻村陬邑の如き消毒藥の具へなき所に於て、一朝とコレラ患者を生じたる時は之れが排泄物に灰を撒き散し混きて、成規の臨檢を待つが如き、又彼の臨檢者が多量の消毒藥を持ち行が如き煩勞を省く等、實に其附

帶する所の便益も亦尠くありません、是に由りて之を見れば以上試驗成績の我邦古來よりの習慣に符合する所あるは、實に不思議とも云ふべき事であります。

此報一たび接するや各種病院の如きに於ても續々之を使用するもの多しと、有益なるものゆへ茲に之を記載せり。

◎吃の匡正法

此編ハ賀古鶴所君の所説にして衛生療病志第廿九號に掲載せり有益のものなるを以て此に其意を簡譯して轉載す

吃を患ふる者ハ善くものいふことが出來ませんで、返事をすることなどに大層さしつかへまして、誠に心持のよくない者であります、且自分の思ひ通りに話しすることが出來ませんから、其れが爲めに焦燥ッ心がだん／＼増長して、生れつき寛容りとしたる人も騒がしくなり、吃る度每に、下腹の部分の攣縮ハ呼吸を妨げて、心臓や腦に病ひを釀すことがあります。其吃る時言葉を出だそうとして、一生懸命になりましても氣息が出來ませずして、丁度空氣なくして、ものいはんとする感じがあり、舌はまるで釘を以て口の内に打ちつけられたる様で、少しも動きません、唇は自から閉ぢて一と言葉も出すことならず、遂に悶へ苦みまして、われ知らず手を振り脚を踏み、目を張り眉をひそめ、口を尖らせ唾を飛ばす等其有様余り見よくありません。

吃を患ふる者を視るに、からだが段々に成長し言葉を習ひ初むるにつれて、此病を起すあり。又は全身の發育ち方よからずして、五ッ六ッの歳に至りて始めてものいひ出てゝ吃るあり、辯舌よき牧師とか判事などの中年に至り、ふいと吃りになることあり、物

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に驚き或は怖れてこれを發するあり、精神をつかいすぎたり、熱病を煩ひたる後身体の衰弱りたる時に起るあり、又ハ遺傳によりて發するあり、要するに吃は男女の生れつき、身体の强弱賢愚とにハよりません、けれども、大概腺病質のものに多く、鼻や咽喉、氣管支などを病めば吃ることが加ハり、其中でも春ハ吃りの加はるものであります。

吃りの有様を見まするに、教師或は牧師の講義をなし、學生の書物を讀み、俳優のこうせきを演べ、演藝家の歌うたひ、物語りしますにはさし閊へざるに、常々の話しには吃るのがあり、常んの話にハさし閊へざるに、意をこめて話さうとしたり、又は長者とか貴人婦人等に物いはんとすれバ吃るあり、自分の心になんとも思はざれば辨舌爽なれども、少し自分の心に懸け氣を留めて話すとき又は言辭により又は呼吸器に病ある時吃るあり、酒を飲みたる後には辨舌流暢なるあり、これは酒吃と申します。

吃は話すことは出來ませんかと云ふにそうでない、之に敎ふるに法を以てすれば、癒るべき病であり升されどもたゞ藥石の力ばかりにて癒すことは出來ません、考へて見るに吃の病の根とも云ふべきものは、呼吸の正しくないのに在るゆへに、吃を癒さうと思へば先づ呼吸を正しくしなければなりません、これを直すには第一呼吸の操鍊、即呼吸の稽古をしなければなりません、又は字の音を明に言ひ出で言葉をはつきりと出すことを敎へなければなりません、之を第二發聲の操鍊と申します、此の二ツの法を以て吃に敎ふるを正科とし、これに副ふるに次の法を以てします、第三朗讀法、韻文、散文等を緩に聲高く讀み上げて、聲の上り下りを正しくし、吃をさけ、假りにも平常々々ならぬ音調を生せざる様に注意しなければならぬ、第五戲曲又は謠曲の一役

にならせ、相手をこしらへて其役の言葉をいわせ、此習ひの傍らに躰操をして全身の營養を盛んにし、胸腹の伸び縮をする筋や肉の作用を強よくなし、身躰や精神に害わることは勉めてこれをさけしめ、呼吸器に病ひわる時は直ちに之を療し、腺病質なるには強壯劑を與へ、人によりては海山に遊ばし、或は伊朔擬氏の二十度乃至十四度なる冷水にて行水をなさ、或は按摩法を施し、或は電氣を用ひ或は肉食をすゝめ、或は素食を勸めなどいたします。

吃を治す法は大概右の如くありますけれども、啞者は通例此世話をなす時間がありません、世に教育を以て自ら任ずる人にして、新に此匡正法を行ふ人がありませうか、此世の中を益するは實に僅かなことではありません歐羅巴ては到る處に吃の匡正所がありまして、啞者が専ら匡正の事を監督して居ります其業余程盛んでありまして盲啞學校と並び立ちて居ります。我邦には未だ此の様なものはありません、澳太利ヰイン府の吃匡正所にて、コオン博士が教ふる法は余程手輕でありまして、其効能かよくわらわれます、此法によれば日に一時間呼吸操練と、發聲操練とを教ふるを以て充分といたします。夫れ故に且らく匡正所を設けにくい地方では、小學教員諸君にして匡正の勞を取ればよかろうと思ひます、父兄にして日々嚴しく正しく子弟を教ぬることが出來ますれバ、家庭に於てするもよろしく、又年長けたるものは自分から正すこともよからん、コオン博士の正科たる吃の匡正法はこれを三ッに分けてあります。

第一　呼吸の操練

第二　發聲の操練

第三　發語の操練

呼吸の操練には十一課あり、週を追ひて順次にこれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を習ひます、發聲の操練には二課あります、發話の操練には七課あります、終りの二た種の操練は呼吸の操練の一課と共に日々習ひます、習ひます時間は休息を加へて毎日一時間とし、小兒及弱き生れつきの人は各課の終りに復習をさせてはいけません、演習ます間は身躰の勢りを正しくすることは丁度兵士の真直に立ちたる樣にして、兩臂を伸して下に垂れ、肩を後ろにそらせ胸を前につき出し、頭を正しくし目は物を見ずして地を見、聲を出し言葉を出すには充分に口を開きて話しをなす機關をして正しく運動をなすことが出來るようになし、聲音は叫びて余り高すぎず低くすぎず、自然の聲調と語調とを損せざる樣になすべし、そして演習の時刻は朝を晝としますから、朝飯と午飯との間に於てするをよしとす、腹の空いている時や腹の滿ちている時には決して習らつてはなりません、心持が惡くなりまして嘔氣を催し、頭が重く眩暈等を起すことあるからであります、又身躰をひどく疲らした後では亦習はぬ方がよいのであります、故に吃と雖ども其匡正法によりては、よく之を矯正することの出來るものであります。

衛生叢談

◎母のつとめ（二）

（前号の續）

小兒の遊びは大きく二つに別けられ。其の第一が生活のなき遊道具即ちおもちやを持て遊ぶこと。其の第二が生活のある遊道具即ち小兒が自ら其の物となりて遊ぶことと申しました。總べて小兒の遊びは此の二つの種類の外にはないといふとは。誰でも能く知りて居ります。そこで幼稚園に於きましてもこれを本として其の教かたの規則を立てましたものでござり

ます。普通小兒がうちに居て遊ぶとき大概最早全く一つの品物に出來上りた。おもちやを持ちて遊びますが。幼稚園では鞠や。球や。圓柱體や。立方體や。立形や。置かたなど。其の外いろ〳〵の物を遊び道具として與へます。此の遊道具は一つ〳〵に細かく分かち毀して。其の内部を窺ひ見るとが出來ますから。自然と小兒の物事をうがち穿鑿する心を勵まし。又一つづゝにわかれたる部分を聚れば色々樣々の物の形や。品物を造りこしらへるとが出來ますから。自然と新らしく物を造りこしらへる心を引起します。小兒が物をこわしたり。潰したりいたしますのも大人から見れば譯もなく。道理もなく。たゞ打毀わすやうに思われますが。決して左樣ではござりません。一体小兒の物を毀わしたり。摧きたり。致しますのは其の物の内部を窺ひ探らんとする。自然精神の働が進む驗でござりますそこで彼のフリヨーベルが普通出來上りた遊道具には。小兒の精神の進みを促がすだけ事が十分に備わりておらない。何でも小兒のおもちやは毀わすことも出來。又組立て或はならべて新らしき形を造り出すことの。自由に出來るものが要用であるといふとを見だし。かように。色々の道具を考へてこしらへました。此の遊道具もまた追々小兒の精神の進みや。手業の慣れるに隨ひて。次第〳〵に六かしく。疊みかただの。組かただの。織かただの。又豆つぶ遊びや。ねば土遊びもだん〳〵進んでまいらなければなりません。是等の遊道具は小兒が厭きたり。退屈したりいたしませんで。喜びて玩びますから。面白く樂しく。また苦まず勞れずして精神の働きも進み。手業も自然とたやすく習ひ覺えるものでござります。先づこれまでが第一の生活無き遊道具に就きてのあらましの意味でござります。是だから其の第二の生活ある遊道具。

即ち小兒が自ら其の物を爲りて遊ぶの。或ひ朋友と遊ぶことにつきて申します。是れは些と委しくお話し致しませんければなりません。なぜなれば私が此の日本へ參りまして見出しましたとがござります。日本の小兒の遊びには運動遊びと申すものが甚だ少なき樣に見へます。殊に家の外に出で賑かに活潑に運動になる事が少なく。とりわけ小さき女の兒が一所に集まれば。直きにお手玉や。きしやごや。鞠や。又はまん〳〵事などゝ。動くとは少なく。常に坐敷にすわりづめの事ばかりいたしますから。甚だかよわく。そして病身の者が多くござりますのは。みんな其の體を使ひ運動となる遊びの少なき罪だと思われます。一体小兒の育つさかりには。飛んだり跳ねたり。駈けたりして成る丈け其の手足や。筋や。骨の丈夫に成る樣にしなければなりませぬ。夫に坐りて計り居りますれば。自然胸を押付けたり腰を屈めたり體の育ちを妨げますから。大人になりても弱く。又病身に成りますも最早此の時に種子を蒔き付け。又芽をこしらへておく道理でござります。私が思ひますに。多く日本の人は女の兒といふものは男の兒のやうに飛んだり跳ねたり荒らく遊ぶは不行儀で宜しくない。成る丈けおとなしく物柔かにするのがよき者と。昔しからの習わしでござりませうが。何故に女の兒は男の兒の樣に運動をしないがよいか。又何故に女の兒は男の兒ほど強く丈夫でなくて宜しきか。私には一向其の譯がわかりませぬ。皆さまも御存じの樣に。女の兒はさき〳〵世の母親となり。成る丈け丈夫で。健康て賢こき兒を設けなければ成らぬといふ六かしきつとめを持ちております。夫れに其の女の兒には其の體の育ちに氣を着けず。却て夫れを妨げることばかりを敎へ導きながら。此の六つかしき勤めを望むは甚だ無理な譯

ではござりませんか。迚も出來ないことでござりましやう。かやう申しますと女の兒が飛んだり跳ねたり。又大きな聲をいだすのは不行儀とか。或は不似合とか思召すお方もござりましやうが。一體能く教へ育られたる小兒は年頃になれば。自然に其の程やひを見出すものでござります。殊に女といふものは生れつき。自然うちばに女らしく感じを備へておりますから。すべて不行儀の事や不似合のことは。自らきまりわるく耻かしく思ひて致さないものでござります。そこで獨逸の文部省でも只今では。すべての女學校に於て體操をさせることとなりましゝ。どふか我が國此の日本にも。女學校に器械體操ばかりでなく自由體操をも入れられるやうにいたしたきものと思ひます

（完）

◎劇場空氣試驗

劇場の中近來改築せし歌舞伎座外五座に就き、空氣試驗を施行い、其成績を技師細井脩吾氏より報告せられたりと云ふを見るに、

空氣を汚染して人畜の呼吸に堪へざらしむる者は、主に炭酸「アムモニヤ」、亞硝酸、有害性、揮發物及「バクテリヤ」類にして、水蒸氣の過剩も亦幾多の障害を與ふるものたること、先哲已に証明して殘すところなし、此の如く空氣中に夾雜りて人畜の生活に障害を與ふるもの其數少からずと雖とも、化學上之を撿查して其良否を斷ずるは、特に炭酸を以て標準となし、其含量を定むるにあり、今溯りて空氣を汚染標準たる、炭酸の本源を探ぐるに、動物の呼吸、薪、炭、燭油の燒燃、及有機物の腐敗等は皆主要の地位を保つものにして、劇場、寄席等總べて衆人の集會する場所にありては、亦從て多量の炭酸を含有するものとす（中略）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

古來本邦劇塲の構造たる頗る不完全にして、更に換氣の方法如何に注意することなく、恰も汚腐空氣の淵藪たるが如き狀況を呈したりき、然れとも衛生の道開け、建築の術進むに從ひ、漸次改良を加へ現時の劇塲は殆んど舊觀を止むるものなきが如し、茲に於て本年二月以來技手小林種英、雇員水野虎吉をして新築劇塲に於ける空氣を試驗し改良果して其効を奏し換氣完全にして炭酸の含量彼の標準とする空氣の範圍內にあるや否やを鑑むるに、別表掲ぐる所の成績を得たり。

各劇塲に於ける各部の空氣中炭酸の最も多きと最も小き及其平均數を掲ぐれば左の如し

座名	最多	最小	平均	平均量の限界量に超過
歌舞伎座	二、七九	〇、七八	一、七七	〇、七七
春木座	一、四七	〇、五七	一、〇一	〇、〇一
柳盛座	一、九六	〇、六四	一、〇八	〇、〇八
常盤座	一、六九	〇、六三	一、一九	〇、一九
三崎座	二、〇三	〇、五九	一、二一	〇、二一
大和座	一、八一	〇、六五	一、一四	〇、一四

以上六劇塲に於て其最も多量を含むものは、皆大入塲の中換氣不良の塲所にして、其最少量なるは開塲前或は觀客退散の後にあり、唯柳盛座及大和座の最少量は高士間に於て之を見るも、此塲所に於ける觀客は其數甚だ少なければ、從て空氣を汚染の度も亦僅少なるは理の當に然るべき勢ひ例外となさゞるべからず。

又上表に由りて之を觀れば平均數中炭酸の限界量（人の生活に適度なる量）以內に存する者なし、其之に近き者は春木座にして尤も遠きものは歌舞伎座にあり、（中略）然れとも當時の氣候風雨の有無其他に由りて、多少の變化を免がれざれば更に試撿を反覆して、確實なる成蹟を得るにあらざれば、遽に此成蹟に由て

其構造の良否を斷ずること能はざるなり云々と官報に見へたり。

◎佐賀縣赤痢

佐賀縣に於ける本月十日より十六日に至る一週間の赤痢患者は百〇四人、內死亡二十四人ありて初發よりの總患者百五十七人、內死亡三十七人、全く治りしもの十一人なりと云ふ、其熊本縣下に於ても目下流行の傾きありといふ。

◎類似流行性感冒　沖繩縣に於て本年五月二十九日より、同六月二十五日に至る、四週間內に流行性感冒新患者千三百十一人ありたりと。

本會錄事

◎七月中入會の會員宿所姓名左の如し

○幹事馬渡たま子の紹介により

一南豐嶋郡淀橋町四百拾五番地　粟屋たけ子

○會員岩永さと子の紹介により

一神田區駿河臺東紅梅町十三番地　內田耕作君夫人

○會員久米婦美子の紹介により

一本郷第一醫院　小橋せつ子

○會員增田はな子の紹介により

一本郷第一醫院　下村きみ子

一千葉縣山邊郡山田村　土屋はな子

○轉居　本會幹事細川靜子は都合により神奈川縣東浦賀町洲崎百五十七番地へ轉居せられたり

正誤

前號雜誌會告の部七月八日は誤植にして右は七月八月とも例により本會の講演相休み候事故玆に正誤す、

○前號雜誌に掲載したる入會員嶋野太郎は嶋熊太郎君の誤りに付之又正誤す

◎魚類の貯藏法

魚類を貯へるには種々其法あるも其内最も効めあるは新鮮しき魚の腹を割き臓腑を抜き去りて能く洗ひたる後内外の部分へ芥子の粉を塗抹て置けバ外部より空氣の侵入するを防ぎ内部には「バクテリヤ」の發生を防ぐが故に冬日には三十日余夏日にても五六日の間は貯藏し得べし而して其味ひに至りても少しも變ずることなく鮮らしき魚に異ならずと云ふ又芥子粉の代りに黒砂糖少量に硼酸を混和するも可なりと是に硝石を加ふれバ肉硬く縮まるの氣味あり此貯藏は皮の厚さ魚類 即ち鮭などは最も其効めありといふ。

◎雞卵の貯藏の法

此法は卵の内に空氣幷に濕氣の浸み通らぬやうにするを第一の目的とす卵子を永く保存するには石灰水の濃き液に浸し之を取りわけ乾きたる場所に貯ふるを宜しとす斯くするときは卵子の外と殻の細かき孔を閉ぎ其蒸發を防せぐのみならず外氣の含有する有機物の醗酵を防ぐべし米國にては能く乾きたる食塩の内に卵子を埋藏したるに數月能く保存して腐敗せざることを得たりと云へり其法は空き藏の冷かなる處に箱を整置し之を入るべし而して卵子は決して相觸らざる樣に注意し搖かすことなくして棄て置くときは六月或は七月に卵子を埋藏こんでも翌年二月頃に至るまでは其外觀全く新撰なる者と異ならず其味ひも少しの黴臭き香を帶ぶることなしと云ふ

◎石鹸には砂糖を和用すべし

石鹸を使用するに當り少量の砂糖を調和すれば泡沫幷に其効力を增加するを以て如何なる汚れ染みといへども容易に洗滌することを得べしと獨逸の學藝志林に記載せり○

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎内外度量衡比較表

外邦	尺度（ものさし）	内國
應智（インチ）		八分三厘六毛余
フート	十二「インチ」ナリ	一尺〇〇四厘三毛余
	量（めかた）	
パイント		三合一勺余
クアルト	二「パイント」ナリ	六合二勺余
ガルロン	四「クアルト」ナリ	二升五合余
	衡（てんびん）	
グレイン	瓦ノ符號ヲ用フ	一厘七毛
グラム	二十七「グレイン」三十二分ノ十一	四分七厘二毛
	但藥量ハ六十「グレイン」ナリ	一匁〇三厘七毛余
ヲンス	丐ノ符號ヲ用フ十六グラムナリ	七匁五分六厘四毛余
	但藥量ハ四百八十「グレイン」ナリ	八匁二分九厘八毛余
封度（ポンド）	又磅と譯す十六「ヲンス」ナリ	百廿一匁〇二厘五毛余
	但藥量は十二「ヲンス」ナリ	九十九匁五分八厘六毛余
クオルトル	二十八「ポンド」ナリ	三貫三百八十八匁七分〇一毛余
ホンドルドウエート	一名「セントウエート」トモ云フ四「クオルトル」ナリ	十三貫五百五十四匁八分〇六毛余
噸（トン）	二十「セントウエート」ナリ	二百七十一貫〇九十六匁一分三厘四毛余

NOTICE

◎地方の方に告ぐ

會費御未納の方は至急事務所へ御送附下され度爲替は總べて下谷郵便局宛に願上候

東京下谷區練塀町四十三番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京麹町區三番町六十七番地
編輯兼發行人　嚴本善治

東京麹町區上二番町十八番地
印刷人　八本吉六